



# 第36回 全国読書作文



## コンクール対象図書一覧

今年も読書作文コンクールの季節がやってまいりました。

毎年たくさんの作品をご応募いただきありがとうございます。

今年の対象図書が決定いたしました。

どの図書も素敵な作品なのでぜひ読んでいただきたいです。



### 【小学生の部】



図書名 : おいしいお米をつくりたい！

谷本雄司 著 定価 1,980 円 (税込) 汐文社



「ゆうちゃん」こと新宅佑輔くんは、農家の中井知広さんが作るお米が大好き！「ぼくもつくりたい！」と小学2年生で弟子入りし、小学校の教室・およそ10部屋分の広さの休耕田で米づくりをはじめます。虫が好きなゆうちゃんが目指すのは、完全無農薬・天日干しのお米。

でも、お米づくりは想像以上に大変でした。どろだらけになりながらの田植え、取っても取ってもはえてくる終わりのない草取り、そして、せっかく育てたお米をなぎ倒す台風……。ゆうちゃんは、虫たちの命や自然のきびしさと向き合いながら、一生懸命お米を育てていきます。その姿を見て、近所の人々が手伝ってくれるようになりました。害虫や雑草とのたたかい、おそい

かかる台風をのりこえ、目標の300kg収穫は達成できるのでしょうか？完全無農薬・天日干しにこだわるゆうちゃんの情熱が、高齢化が進む町の人々の心を動かしていく、感動のノンフィクションです。





図書名 : 先生!おかわり禁止って へんじゃない?

麻生かづこ 作 / イシヤマアツサ 絵 定価 1,540 円 (税込) 金の星社



「忘れ物をしたら、給食のおかわり禁止」「おたんじょうび会も禁止」……えっ、これって厳しすぎない?

物語の主人公・春斗(はると)は、いつも決まりが守れなくて怒られてばかり。でも、おなかペコペコなのに給食をおかわりできないなんて、さすがにおかしい! 春斗は勇気を出して、クラスのみんなど「学級会」で話し合うことにしました。

「男子の長い髪禁止」や「バレンタインのチョコ禁止」など、探してみると学校にはナゾの決まりがいっぱい。一人の声は小さくても、みんなで知恵を出し合えば、学校を動かす大きなパワーに変わります!

「自分たちの学校をもっと楽しくしたい!」と奮闘する春斗たちの姿は、読んでいただけで力がわいてきます。「もし自分だったら、学級会でなんて言うかな?」と考えながら読んでほしい。この夏、春斗と一緒に、学校の「当たり前」にチャレンジしてみよう!



図書名 : さくら図書館のひみつ

西村友理 作 / ゆーちみえこ 絵 定価 1,540 円 (税込) 国土社



ぼくの名前はももたにゆうや。転校先の学校にもなれて、なかよしの友だちもできたころ、ぼくの名前の書かれた本が、覚えのない所からつぎつぎと現れる。ある日、友だちをさそって、ひいじいちゃんの家でビワ狩りに行き、裏庭の蔵を探検すると、古びた帽子が出てきた。見たことのない帽子だ。なのに、それにも、ももたにゆうやの名前が! まさかぼくがタイムスリップした?! それとも、ぼくとおなじに犬が好きで、絵がうまくて、モモタローってからかわれていた子が、80年前にもいたのだろうか。なぞのカギをにぎるのは、90歳を過ぎたひいじいちゃんだ。ひいじいちゃんから明かされた、思いもよらない真実に、ゆうやは打ちのめされる。だが、つらい時代があったことを知り、そんなときでも、ぼくたちとおなじ

ように学校へ行き、本を読み、笑い、学んだ子がいたのだ。そんな事実を、できるだけ多くの子みんなに伝えていこうと思うのだった。





## 【小学生・中学生共通】



図書名 : フェンシング部の王子さま  
石山宏千花 作 定価 1,760 円 (税込) さ・え・ら書房



「おれ、まちがってないよね。これでいいんだよね……」  
フェンシングにあこがれて、江田学園・中等部に入学した歩羅（ふら）。ところが、フェンシング部の先輩たちのノリはあまりに強烈。とてもついていけそうにない……。新しくできた友人たちと同じ剣道部に仮入部したけれど、フェンシング部には、なぜか心ひかれる「王子さま」がいた——あこがれのフェンシング部か、友情と親の期待を選んで剣道部か？ 仮入部期間が終われば、入部できる部活は一つだけ。しかも一度、部活に入っしまえば、そう簡単にほかの部にうつることはできない。いやになったらやめるしかないわけで……。

王子、あなたがいるから、よけいに悩むんです。

正しい答えと自分の思いが、頭の中をぐるぐるめぐる。

主人公が紆余曲折を経て、「一番やりたいこと」の選択にたどりつくまでの人生最初の決断を描いた、部活選び“お悩み”エンターテインメント。



図書名 : アナタノキモチ  
安田夏菜 作 定価 1,760 円 (税込) 文研出版



人の心の中は、どうしてこう見えにくいんだろう。友だちでも。家族でさえも。ある夏の日、母親に置き去りにされた5歳のハル。ひよりたち家族の家に引き取られた彼には、障がいがあった。空気を読めない。人の気持ちもわからない。でも、大切な友人を意図せず傷つけてしまったり、家庭内での衝突に翻弄されたりする日々の中で、ひよりは考える。「わたしは本当に、人の気持ちがわかっているのだろうか」と。



相手の気持ちが想像できず、人への興味が希薄なハル。そんなハルと突然暮らすことになったひよりや家族が、自分や相手の気持ちに向き合い、見つめ直す物語です。「人の気持ちを理解する」とはどんなことなのか。自分の心の中に広がる世界は、ちゃんと他者に伝わっているのか。コミュニケーションの根幹を正面から捉えた、著者渾身の1冊。年代を問わず、多くの方に触れていただきたいと

思います。。





図書名 : 双子のピアノ

倉本由布 著 / こりゆ 絵 定価 1,760 円 (税込) アリス館



楽器博物館で出会った、二重奏用のピアノ「デュオ・ピアノ」に憧れる双子。ある日、妹の水絃が、デュオ・ピアノから聞こえてくる、不思議な声に気づいてしまい…。

天才ピアニストである兄と自分を比べてしまい、悩んでいた水絃ですが、デュオ・ピアノの霊との交流により、その悩みに立ち向かっていきます。

19世紀から20世紀にかけて、フランスで実際に作られていた、デュオ・ピアノ。

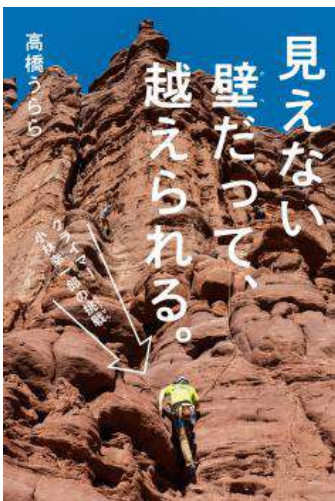
そこにとりついていた霊の持つ過去の記憶と、現代の双子のピアノ弾きの物語とが絡まり合い、ラストには、おどろきの結末が待ち受けています！

周りと自分を比べすぎてしまうと、自分のやりたいことを見失いがちなものですが、好きなことを追求する楽しさに、改めて気づかされる物語です。



図書名 : 見えない壁だって、越えられる。クライマー小林幸一郎の挑戦

高橋うらら 文 定価 1,650 円 (税込) 金の星社



【もし、目の前が真っ暗になったら…あなたならどうしますか？】

本作の主人公・小林幸一郎さんは、28歳で視力を失い始めるという、人生最大の「壁」にぶつかりました。絶望の真っ暗闇にいた彼を救い出したのは、「フリークライミング」。

「目が見えないのに、どうやって登るの？」――

その秘密は、研ぎ澄まされた指先の感覚と、下からルートを教える仲間の「魔法の声」にありました。

本書は、小林さんが世界選手権4連覇という記録を打ち立てるまでの、ハラハラ・ドキドキの挑戦を追いかけます。世の中にある「障害があるからできない」という思い込みの壁も、彼は越えていきます。読み終わる頃には、今悩んでいることがちっぽけに見えて、不思議と「よし、自分も何かやってみよう！」と力が湧いてくるはず。最高にポジティブなエネルギーが詰まった冒険物語です。





## 【中学生の部】

図書名 : ぼくたちの卒業写真

天川栄人 作 / くまおり純 絵 定価 1,760 円 (税込) 文研出版



——「卒業アルバムの個人写真、もっと自由に撮らせてくれん？」  
友だちのいない“暗すぎクラギ”こと蔵木のもとに、学年一の人気者・星野がそう提案してきた。

決まった構図ではなく、一人ひとりの個性が光る、自由な写真が並ぶ卒業アルバムにしたいというのだ。実家が卒業アルバムの制作を請け負う写真館で、自身もプロ並みの腕をもつ蔵木は、しぶしぶながらその撮影を引き受けることになる。人との関わりが苦手な蔵木にとって、人物写真は最も避けたいジャンルだった。それでもシャッターを切るうちに、同級生たちの意外な一面が次第に見えてくる。

ときに衝突し、ときに心をかき乱されながらも、蔵木は少しずつ他人と向き合い始める。



本作は、決めつけやうわべの配慮で「わかったつもり」にならず、相手を知ろうと歩み寄る姿勢の大切さを、蔵木と星野の友情とともに描きます。

“多様性”の本質を深く知り、深く考えるきっかけになる一冊です。

図書名 : 美しくない青春

小手鞠るい 作 定価 1,760 円 (税込) さ・え・ら書房



物語は、現代のある女性が日本から届いた段ボール箱をひもとくことから始まる。中に入っていたのは、名もなき女性詩人の青春の思い出の数かずだった——

女性詩人・立花ミモザは 1930 年生まれ。「誰からも愛されますように」という母親の願いのとおり、みなに好かれ、自由で、めぐまれた少女時代をすごしていた。しかし、ミモザの日常は、しだいに戦争の影におおわれていく。昼はもんぺ姿で農作業、夜は大好きな読書もままならず、空襲におびえる日々。父親は家族に暴力を振るうようになり、ミモザの「美しいもの」は、次々に汚され、うばわれていく。

詩人になりたい、無念なこの思いのたけを、わたしは詩に書きたい——戦争の時代にあっても、心の中の美しさを守りとおした少女の青春の記憶。

著者が敬愛する詩人・茨木のり子さんへのオマージュを込めて描いた、「詩人」と「戦争」の物語。

---

図書名 : 花の子どもたち

小手鞠るい 作 / 丹下京子 絵 定価 1,650 円 (税込) フレーベル館



母の転勤で米ニューヨーク郊外の中学に編入した櫛は、銃規制をテーマにした討論会のメンバー七人に選ばれる。司書のジェフリーや仲間ロビンに支えられ準備に励むが、迎えた本番、個性豊かな面々の自己紹介を耳にした瞬間、櫛は衝撃を受ける。日本で学んだ「多様性」の概念を覆されたのだ。それは「マジョリティが異なる存在を受け入れる」という妥協ではなく、「初めから異なる者同士がそこにいる」という圧倒的な現実。多様性とは受容のプロセスではなく、混ざり合っている状態そのものの「豊かさ」なのだ。

ついに口火が切られ、櫛は聞き取るだけでも必死だ。親友同士でも臆せず反論し合い、かつ相手を否定しない堂々たる議論が展開される。その勢いに圧倒され何度も言葉をのみこむ櫛だったが、ロビンの後押しを受け、ついに自らの声を響かせ始める。ルーツも考え方も異なる七人の子どもたちが、正解のない問いを前に導き出す未来への結論とは――。

---

第36回読書作文コンクールの応募締め切りは

**令和8年8月27日(木)** です！

たくさんの方からのご応募お待ちしております！

